

真のグローバル経営の実現と持続的な企業価値成長を目指して

日本企業のコーポレート・ガバナンス改革はここ数年で大きく進展しています。重要なポイントは、外形的な改革ではなく、会社トップのマインドセットの変化を基本とした実効性のある取締役会の運営改革と、持続的成長に向けた経営全般の改革です。

その意味で、オリンパスは2011年の企業不祥事を契機として、任意の委員会*1を設置し過半数を独立社外取締役とする等、取締役会の抜本的改革を断行しました。その後は、まず不祥事からの脱却・経営基盤の立て直し、続いて事業の選択と集中、財務基盤の強化を図り、2016年4月からは16CSP*2を軸に成長戦略を推進してきました。その間、多様な経験を持つ社外取締役とともに、活発な議論や各委員会の運営等を通じて実効性の高い取締役会運営が行われてきました。

現在、海外売上高比率は約8割となっており、真のグローバルベースでの経営の展開を充実させるべきフェーズに入っています。これまでに増して監督と執行の分離を進め、取締役会と経営執行会議の棲み分けによる、経営執行の迅速化と監督機能の強化をより図っていく必要があります。一方で、企業価値の定義も進展し、従来の財務的価値に加えてESGやSDGs等の非財務的価値、即ち社会への貢献や環境配慮等が求められています。当社は2018年5月、世界の人々の健康と安心、心の豊かさを求める「私たちの存在意義」「私たちのコアバリュー」からなる新経営理念を打ち出しました。今後、新しい経営理念のもと、真のグローバル経営の実現と持続的な企業価値成長を目指して、さらに実効性が強化された取締役会の運営を行っていきたいと考えています。

*1 指名・報酬・コンプライアンスの3委員会

*2 5力年の中期経営計画

Letters from the President and

代表取締役社長執行役員

笹宏行

社外取締役（取締役会議長）

藤田 純孝



the Chairman

取締役会議長および社長からのレター
（ステークホルダーの皆さまへ）

次の100年につながる「真のグローバル企業」を目指し、より強い会社に成長させる

社長に就任して6年が経過しました。この間、企業価値の最大化を第一に、グローバル競争を勝ち抜く強固な財務基盤の構築やコンプライアンス強化に取り組み、ステークホルダーの皆さまの期待に応えるべく舵取りを進めてきました。かつての危機的な状況を脱した当社は今、再建から「成長」へと経営のステージを切り替え、世界トップレベルの医療機器メーカーを目指し、着実に取り組みを進めています。世界中で法規制・許認可等への対応が複雑になる中、当社はグローバルで確にコントロールするために法務機能を再編したほか、この1年をかけて、経営理念を刷新しました。将来を見据えると、目まぐるしく変化する環境の中で、これまでの固定観念にとらわれることなくその時代に即した新しい考えを柔軟に受け入れ、俊敏な決断と挑戦によって物事を変えていくスピードが必要です。こうした思い等を世界中の従業員やさまざまなステークホルダーの皆さまと共有するために、新しい経営理念では私たちの存在意義と価値観を明解に示すことにしました。また今回、当社初の「統合レポート」を発行するに至りました。本レポートを通じて、当社の価値創出を表現する上で欠かせない重要な情報をステークホルダーの皆さまにお伝えし、ご理解の一助としていただきたいと思います。

当社は2019年に創立100周年を迎えます。次の発展・成長に向けてどう進むか、新たな経営理念のもと動き出しました。私たちの存在意義である「世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現」に向け、また事業を通じた価値の創出と社会課題の解決に貢献する企業であり続けるべく、強い意志で会社を導いていきます。